

千葉県における家畜排せつ物の利用の促進を図るための計画（概要版）

畜産業の健全な発展に資するため、昨今の畜産環境をめぐる情勢の変化を踏まえて、本県の家畜排せつ物の利用の促進に関する基本姿勢を示す計画
 目標年度 平成37年度（平成28年3月策定）

計画策定の背景

根拠

●「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」（H11年施行、H16年本施行）に基づき、国の示す「家畜排せつ物の利用の促進を図るための基本方針」を受けて策定する法定計画

これまでの計画の概要

- H12～20年度計画
 - ・家畜排せつ物の管理基準の遵守（野積み、素掘りの解消）
 - ・家畜排せつ物処理施設の整備
- H21～27年度計画
 - ・管理基準遵守の継続
 - ・地域環境に配慮した家畜排せつ物処理施設の整備
 - ・耕畜連携強化及びニーズに即した堆肥づくり
 - ・畜産環境対策の推進

計画の達成状況

- 管理基準の遵守率
H12 45.6% → H27 100%
- 処理施設整備の割合
H15 37.9% → H27 84.1%
- 苦情発生件数
H12 200件 → H27 119件
- 農家戸数に占める苦情の割合
H12 6.6% → H27 7.3%



平成37年を目標年度とする新たな計画を策定

現状

● 処理施設の設置状況と堆肥化率(%)

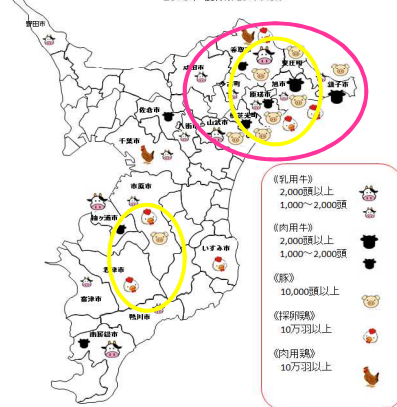
種別	主な処理方法 (農家戸数割合)			堆肥化率
	施設処理	簡易対応	直接散布	
乳用牛	82.1	3.5	14.4	89.5
肉用牛	80.1	3.1	16.8	98.0
豚	93.1	1.6	5.3	99.2
採卵鶏	94.0	2.6	3.4	99.9
県全体	84.1	2.1	13.8	93.8

H26千葉県調べ

● 乳用牛の堆肥化率が低い

● 豚及び採卵鶏の飼養地域の偏在

2010年 農林業センサスより



● 苦情発生状況

畜種	要因				合計
	悪臭	水質	害虫	その他	
乳用牛	30	7	3	10	50
肉用牛	5	0	0	0	5
豚	25	7	1	3	36
採卵鶏	11	0	3	0	14
肉用鶏	6	1	0	0	7
その他	6	0	0	1	7
合計	83	15	7	14	119

H27千葉県調べ

要因は悪臭、畜種は乳用牛が多い

課題



乳用牛

・他の畜種に比べ堆肥化率が低く、農地に直接散布を行っているため、悪臭、景観の悪化及び周辺環境への流出等で、苦情が多い
 ・堆肥化することにより、悪臭の低減、散布時の景観等の改善を図ることが必要



豚

・北東部地域では堆肥の供給量が過剰。堆肥の新たな活用方法の検討が必要
 ・臭気低減対策が必要
 ・厳しくなる排水基準への対応が必要（硝酸性窒素類 700mg/L → 100mg/Lを視野）



採卵鶏

・北東部及び南西部では堆肥の供給量が過剰。堆肥の新たな活用方法の検討が必要
 ・臭気低減対策が必要

県で推進が必要な課題

- 家畜排せつ物の堆肥化率の向上
- 耕畜連携による堆肥利用の推進
- 悪臭を中心とした畜産環境問題への対応
- 排水基準の強化に適應した汚水処理

推進の方向

家畜排せつ物の堆肥化率の向上

乳用牛の堆肥化率 89.5% → 95%以上
 経営指導及び堆肥化技術の指導、施設整備の推進を行う

- ・悪臭の低減及び景観改善により苦情減少
- ・発酵熱による雑草種子の発芽抑制及び病原体等の死滅

耕畜連携による堆肥利用の推進

必要な施設及び機械導入を推進。特に、新たな利用先として、水田での堆肥利用の仕組み作りと必要な機械導入の支援を行う



- ・堆肥流通に係るサービスの向上
- ・情報発信等PR活動の充実
→ 堆肥需給のアンバランスの解消

畜産環境問題への対応（悪臭）

脱臭装置等の導入を推進。畜産クラスター等を活用し地域ぐるみの臭気低減の取組を支援

- ・悪臭低減により苦情減少
- ・臭気指数規制にも対応

排水基準強化に適應した汚水処理

県で開発した技術の導入等、施設の機能向上を推進。農家の処理施設管理技術の向上等を支援



- ・硝酸性窒素類の排水基準の引き下げに対応

その他重要な事項

消費者等への理解醸成活動等により地域と調和した畜産経営を目指す